

富山市岩瀬浜産のシリケンウミセミ若齢個体

布村 昇

富山市科学博物館 〒939-8084富山県富山市西中野町1-8-31

Young individuals of *Dynoides dentisinus* Shen, 1929
from Iwase-hama Beach, Toyama-shi, middle part of the Sea of Japan

Noboru Nunomura

Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

Hundreds individuals of small sphaeromatid isopods were found at Iwasehama Beach, Toyama, the Sea of Japan side of central Japan. They were found on wave-dissipating blocks offshore that were placed to prevent from being washed away by waves. They are younger individuals of *Dynoides dentisinus* because a mature male individual of *Dynoides dentisinus* were collected together with them. And the both are re-described.

1982年7月21日富山市岩瀬浜海岸の潮間帯の波消しブロックの上から小型のシリケンウミセミ属コツブムシの1種の生息が確認された。本個体群は数百個体が波消しブロックの上の潮間帯上部から汀線にかけて見つかったもので、ほとんどが小型個体であったが、1個体のみ成熟雄が発見されたことから、これが *Dynoides dentisinus* Shen, 1929 (等脚目、コツブムシ科) の若齢個体であることが判明した。

本種は1929年Shenにより黄海に面した中国青島Pechihli Bayから記載され、その後日本、ロシアなどから報告されていた。本種の若齢個体の形態は知られていないと思われるので本種の若齢個体の形態は知られていないと思われるのでこれを記載する。

若齢オス個体の記載

体(図1A)は楕円形で、胸部は平行。後端に後向きの短い突起を持つ。腹尾節後端に円形の湾入がある。複眼は通常のおおの約70個眼からなる。第1触角は10節からなり、うち鞭節は8節。第2触角は5柄節と13-14鞭節からなる。頭盾(図1E)は低い三角形。右大顎(図1F)の門歯状突起は3葉、可動葉片は2葉、白歯状突起は広

い。大顎鬚第2節は一本の強い剛毛を側方に持ち、最終節は9本の剛毛を持つ。左大顎の門歯状突起は2葉、可動葉片は2葉からなり、白歯状突起は広い。第1小顎(図2G および H)の底節内葉は2本の剛毛があり基節内葉は10個の歯を持ち、うち4本はぎざぎざである。第2小顎(図1I)底節内葉は5本の剛毛があり、基節内葉の両枝とも4本の剛毛を持つ。顎脚(図1J)基節内葉は長方形で末端に13本の剛毛、壁面に一本の鉤刺をもつ。顎脚鬚は5節で第2節が最大で内側末端に5本の剛毛を持つ。第3節はやや小さく内側末端に7-8本の剛毛を持つ。4-5節は細く、第5節は6本の剛毛を周縁にもつ。

第1胸肢(図1I K)は後続の胸肢より若干短い。基節の長さは幅の2.3倍。座節は基節より少し短い。長節は基節の2/5の長さ。腕節は短く内縁に密生した毛を持つ。前節は太く、内縁に太く短い突起がある。指節は2又しており、前節内縁の遠位半分くらいのところに太い剛毛を持つ。指節は2又しており、3本の剛毛を持つ。

第2-7胸肢(図1J-L)はほぼ同形。基節の長さは幅の3倍。座節は基節より少し短い。長節は基節の長さ。腕節は内縁に剛毛を持つ。前節は太く、内縁に指節は2又する。前節内縁の遠位半

分剛毛を持つ；指節は2又しており、1本の剛毛を持つ。

陰茎(図1R)は1対あり、各々の長さは幅の3倍程度である。

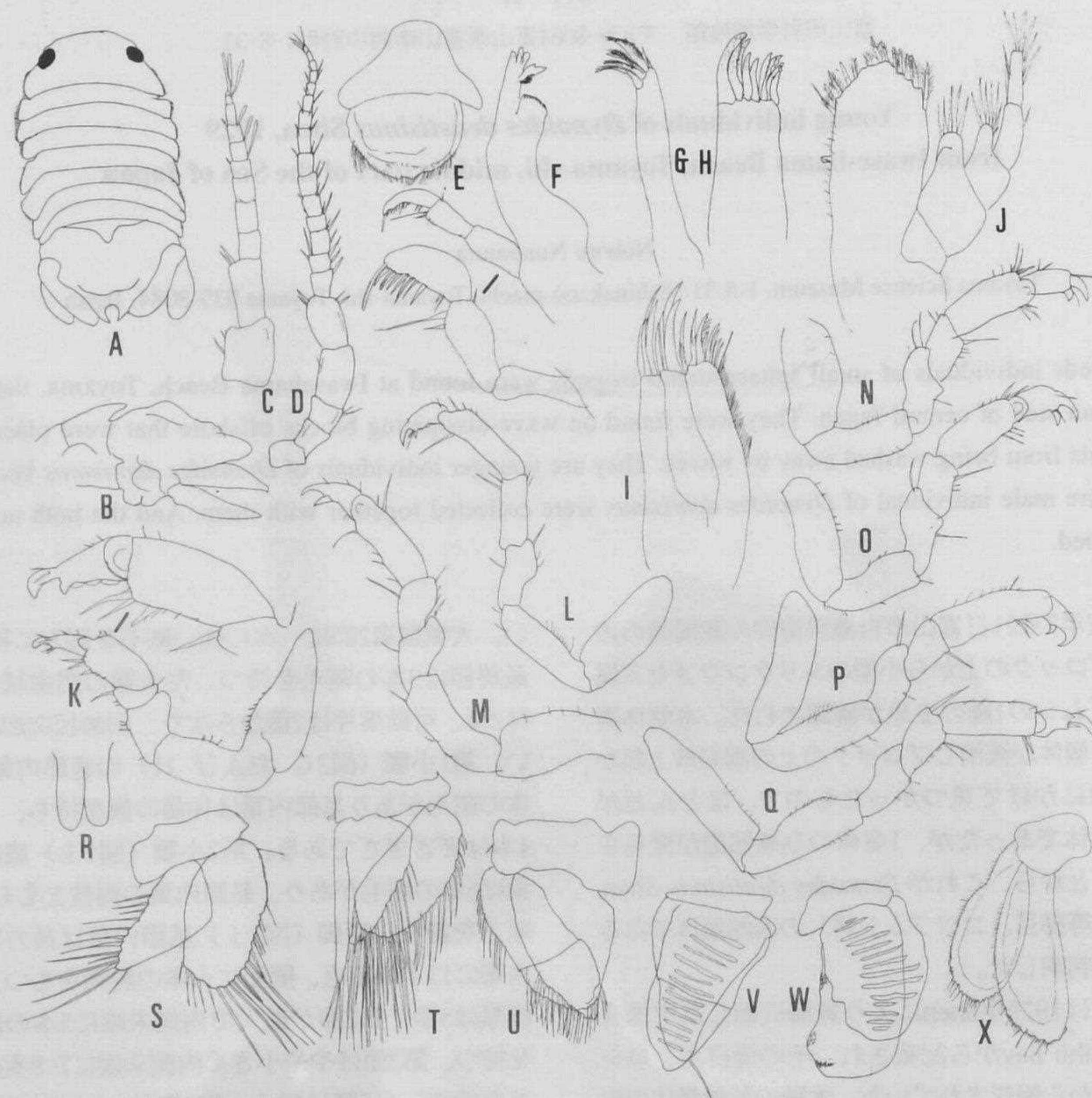


図1 シリケンウミセミ若齢雄個体
A全体図背面観 B後体部側面観 C第1触角 D第2触角 E額葉と頭盾 F大顎 G第1小顎底節内葉
H第1小顎基節内葉 I第2小顎 J顎脚 K-Q第1-7胸肢 R生殖突起(陰茎) S-W第1-5腹肢
X尾肢

第1腹肢(図1S)原節は長方形。内肢・外肢はほぼ同様の長さである。

第2腹肢(図1T)原節は長方形。内肢は三角形。交尾針は内肢の1.5倍の長さがある。外肢は楕円形。

第3腹肢(図1U)原節の3倍程度。外肢は狭く線が入る。

第4腹肢(図1V)原節は短い；内肢は肥厚し横

向きのしわがある。外肢は三角形。

第5腹肢(図1W)原節は短い；内肢は肥厚し横向きのしわがある。外肢は被針形で3個のうろこ状片をもつ。

尾肢(図1X)原節は正方形。内肢は長楕円形でその周縁には10本の剛毛と多数の毛を持つ、外肢も長楕円形でその周縁に周辺は波打っていて12本ほどの剛毛を持つ。

雌は背面の突起が無いことと生殖に関する形態に差が見られる。

成熟雄の付属肢の記載

第1触角(図2A)は3柄節と13鞭節からなる。第2触角(図2B)は5柄節と16-17鞭節からなる。右大顎(図2C)の門歯状突起は4歯、可動葉片は2歯からなる。7-8本の小さい歯からなり、それに続いて5-6本の羽状剛毛をもつ。臼歯状突起は広い。大顎鬚第2節は側方に1本の大きな剛毛を持つ。第3節は側方に9本の剛毛を持つ。左大顎(図2D)門歯状突起は2歯からなり、可動葉片は2歯からなる。臼歯状突起は広い。大顎鬚(図2E)第2節は側方に2本の大きな剛毛を持ち、第3節は側方に9本の剛毛を持つ。第1小顎(図2GおよびH)基節内葉は4本のぎざぎざのものを含め、10本の歯をもち、第2小顎(図2I)底節内葉は5本

の剛毛を持つ。基節内葉の両片は4本の剛毛を持つ。顎脚(図2H)は側面に1本の交尾鉤をもつ。顎脚鬚は5節からなり、その第2-3節は長く、第4-5節は細い。

第1胸肢(図2I)の長節は基節や座節の1/3程度の長さ。腕節は三角形で内縁に1本の比較的長いものを含んだ剛毛が密生し、外縁末端に2本の剛毛がある。前節は比較的太く内縁に太く短い突起がある。

第2胸肢2(図2J)の基節と座節がやや長く、長節は座節の1.3倍の長さである。腕節はやや長く、長節の1.3倍の長さがある。前節は腕節の1.5倍の長さがあり、内縁に短い剛毛が密生する。指節は第1胸肢のそれより細い。第3胸肢(図2K)以降もほぼ似た形態である。

第7胸肢7(図2L)基節にくらべ座節はさらに

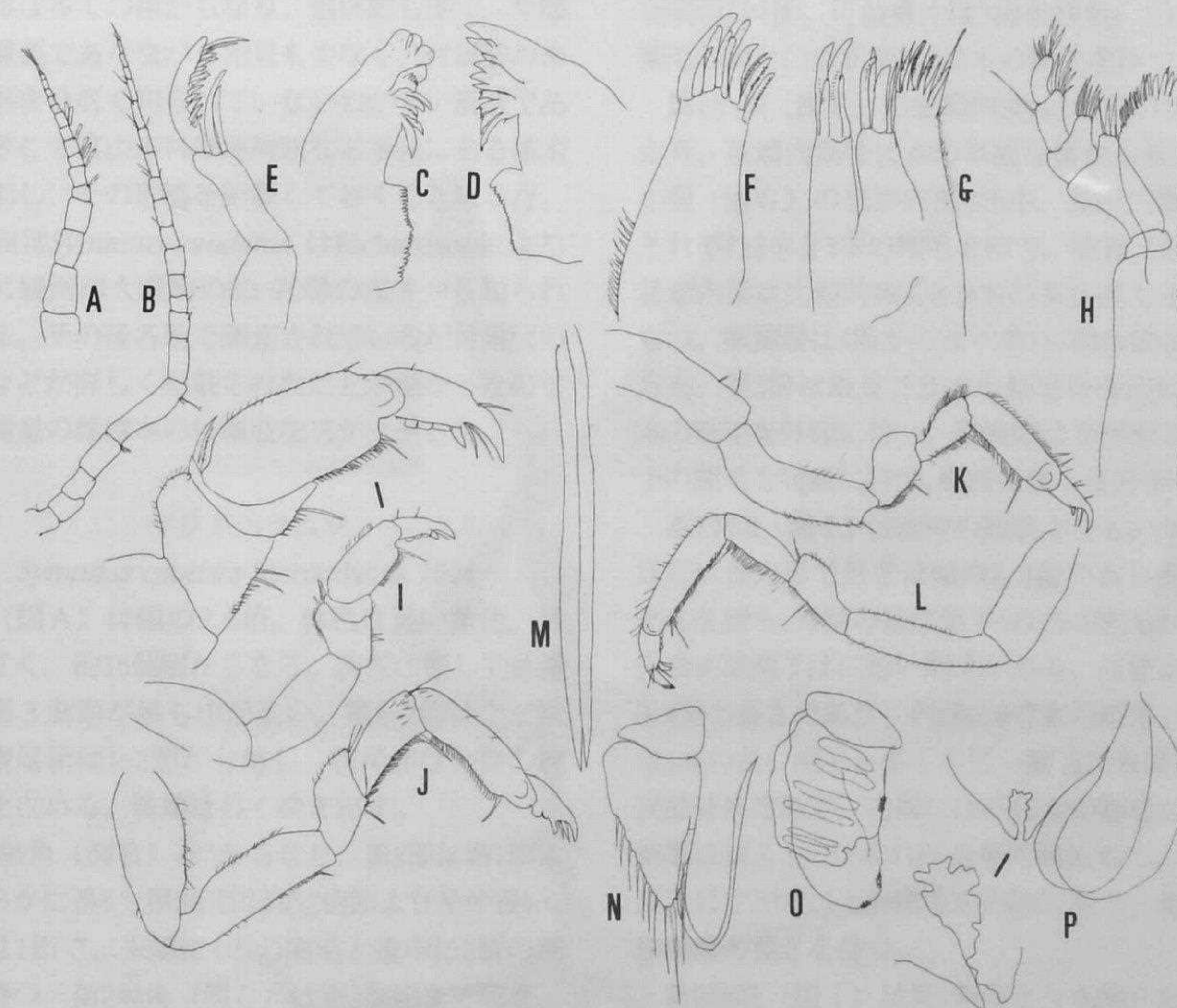


図2 シリケンウミセミ成熟雄個体
A第1触角 B第2触角 C左大顎 D右大顎 E大顎鬚 F第1小顎外肢 G第1小顎内葉 H顎脚
I第1胸脚 J第2胸脚 K第3胸脚 L第7胸脚 M生殖突起(陰茎) N第2腹肢 O第5腹肢
P尾肢と腹尾節後端

長く短い毛が密生。長節は座節の半分の長さ。腕節は長節とほぼ同長、前節は腕節の1.2倍の長さがあり、いずれも内側に毛が密生する。

陰茎(図2M)は対をなし長く、各々の長さは幅の25倍に達する。

第2腹肢(図2N)内肢の交尾針は長く、折曲り先端は針状であり、長さは幅ほぼ70倍。第5腹肢(図20)の内肢は肥厚する、外肢は内肢より若干長く、3群の疣状突起を有する。

引用文献

Kussakin, O.G. 1976. Marine and brackish Isopoda of cold and temperate waters of

the Northern Hemisphere I. Suborder Flabellifera. Akade 1-170(露語).

Nunomura, N. & Nishimura, S. 1976. Marine Isopoda from the rocky shore of Osaka Bay, middle Japan (2). Bull. Osaka Mus. Nat. Hist., 30:19-26.

Shen, C. J., 1929 Description of a new isopod *Dynoides dentisinus* from the coast of North China. Bulletin of the Fan Memorial Institute of Biology, Peiping 1:65-75.

布村 昇. 1995. 等脚目. in 西村三郎編, 原色検索日本海岸動物図鑑(II). pp. 205-223. 保育社, 大阪.

ヤリボヘラムシ

布村 昇

富山市科学博物館 〒939-8084富山県富山市西中野町1-8-31

One page of note on Anatomy-3 *Symmius caudata* Richardson

Noboru Nunomura

Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

Symmius caudata was reported at first from Osazaki, Suruga Bay (Richardson), But no adequate figures of appendages have been sketched.

Therefore, I redescribed *Symmius caudata* on a female specimens caught from Sagami Bay.

筆者は等脚目甲殻類の分類を手がけてきたが、この類は多くの種からなり、個体数も多く、生態的に重要でありながら知見も少なく、付属肢の形態もあまり広く知られていないのが多い現状である。そこで富山市科学博物館など手元にある標本を解剖し、その形態を記載しておくことにした。

今回は *Symmius caudatus* は Richardson により 1904 に駿河湾大瀬崎の 60-70 尋の深さから知られている。その後各地で調査されているが付属肢の形態などが詳しく記載されたことが無かったので相模湾産の雌標本の付属肢をスケッチした。

ヤリボヘラムシ

Symmius caudata Richardson, 1904

体(図A)は幅の3.0倍。体色は鈍い黄色。目は小さく、約15個眼からなる。胸部は概して紡錘形で第3胸節が最も巾が広い。第5-7節は巾が狭い。腹尾節は1-2節が分離し、腹尾節は全長の約45%を占める。後端は長く突き出す。

第1触角(図B)4節からなり、第2節は第1節より明らかに長い。第3柄節は第2柄節よりやや長い。鞭節は1節で、末端に4本の剛毛と途中に2群の剛毛を持つ。第2触角(図C)は第3胸節まで届き、5柄節3鞭節からなる。額葉は五角形。頭盾は短い。右大顎(図D)の門歯状突起は3歯、可動葉片は2歯からなり、さらに10-11本の剛毛の歯と臼歯状

突起は4本の剛毛を持つ。左大顎(図E)の門歯状突起は4歯、可動葉片は3歯を持ち、10-11本の剛毛の歯と臼歯状突起は5本の剛毛を持つ。

第1小顎(図F)の底節内葉は2本の羽状剛毛をもち、基節内葉は10本の単純な歯からなる。第2小顎(図G)の底節内葉は6本、基節内葉両枝はそれぞれ2本と3本の剛毛を持つ。顎脚(図H)の基節内葉は比較的細く8-9本の羽状剛毛を先端にもつ。顎脚鬚は4節からなり第1-2節はほとんど正方形。第3節は最長で20本の剛毛を周辺にもち11本の剛毛を外縁に持つ。最終節は半円形で26本以上の剛毛を周縁に持つ。副枝は狭く皮針形である。

第1胸肢(図I)は後続の胸肢より太いが短い。底節は長方形で長さは幅の2.9倍であり内縁に16剛毛を持ち、外縁の基部側半分には5-6剛毛があり、外縁末端側半ばに短い剛毛がある。座節は底節の0.4倍の長さであり、内縁に6-7本の剛毛、外縁には1本の長い剛毛と多くの短い剛毛が末端にある。長節は長方形で、内縁には8-10本の剛毛がある。腕節は短く10-12本の剛毛を内縁にもつ。前節は長方形で20本以上の剛毛を内縁にもつ。指節も前節程度の長さを持つ。

第2胸肢(図J)は第1胸肢よりも明らかに細く長い。底節の長さは幅の5.3倍で内縁に何本かの2又または3又したものを含め、約20本の長い剛毛をもち、外縁に2又または3又のものを含め17-18